

奈良県川上村の観光情報が満載！

第20号

2026年 冬

ひとめぐりがわかみ

この写真は、12月31日に
丹生川上神社上社で行われる
焚火の写真です。年末年始の参拝者の
みなさんを暖かくお迎えするためのものです。
漆黒の闇の中で赤々と燃え上がる炎は、実に幻想的です。

Kawakami Information

169号 冬景色 川上村の“冬”何を感じていただけるでしょうか。

12月

師走になるとお正月を迎える準備に入ります。年末の大掃除をして、畑では白菜の頭を藁などで巻き、寒さに備えます。白菜や大根の漬物の用意をします。

お寺や神社では、年末の掃除やしめ縄の取替え作業、燈籠の障子の張替えなどが行われます。家々では近所の長老にしめ縄づくりを教えてもらいます。

※「かわかみ源流ツーリズム」では、体験プログラムとしてしめ縄づくりなど、川上村の暮らしの中にあるものを取り上げています。

餅をつき鏡餅にして飾ります。「いただき膳」と言い、元旦に家族が頭の上に持ち上げていただきます。

しめ縄にヨタレ(紙垂)やウラジロ、橙を付けて神棚にとりつけをします。

大晦日に神社で「とんど」をしている大字もありました。

1月

お正月は、地元の神社やお寺に新年のお参りをして、7日は「山の神の祭事」「しめ縄とんど」「七草がゆ」に続きます。「しめ縄とんど」は14日に行われていましたが、最近では日曜日や他の行事と併せてするなどしています。

大寒の時期(概ね1月20日から立春の前日まで)になると、標高の高い滝などが凍るところがあります。氷瀑、氷壁が見られることも。

昔は家の軒先にも大きな「つらら」ができていましたが、最近は見かけることが減りました。

23日頃に地蔵まつりがあります。

2月

「二の正月」は2月1日に行われ、42歳の人々が厄除けのために餅をついてお供えをし、神社に参拝をしました。神主は、地元の氏子が一年交代で務めていました。

節分には、ヒラギの枝と共に鰯の頭を刺して玄関に飾ります。夕方には豆まきをします。

こんにゃくの酢みそ和えを作って食べます。

川上村には南北朝時代の後の哀しい歴史が残っています。「後南朝」の歴史は表舞台には出てきません。南北朝合一の後、南朝の皇子が川上村に隠れ住み南朝再興を持てていましたが、18歳の自天王が北朝の刺客に襲われ非業の最後を遂げられました。川上村の郷土たちは何とか自天王の御首を取り返し、丁重に埋葬されました。毎年2月5日には自天王を偲び「御朝拝式」を500有余年間欠かずに行ってきています。

そんな唯一無二の歴史を、かわかみ源流ツーリズムでは「御朝拝式見学ツアー」として開催しています。

「あ〜冬やな」と、川上村の冬を感じに来ませんか？

上多古

川上村に入ってから国道169号を車で約30分余り走ると上多古に至ります。吉野川沿いに大滝ダムによる水没の再建地に家々が建っていて、そこを過ぎて上多古川沿いに右折、すぐに対岸に集落が広がっています。伊勢湾台風では大きな災害があった大字でもあります。

かつては旅館や酒屋、呉服店などもあり、賑わった時代もありました。大峰山から始まる上多古川は大きな支流で、奥が深くきれいな川です。

上谷

上多古を過ぎて林道を進むと左に上っていく道が見えてきます。

左の道が上谷に向かう道です。吉野杉の巨木の間を進んで行くと山の中に急に開けた集落に到着します。外輪山に囲まれたような盆地の場所で、山に囲まれた中に「こんな平らな場所があるの」と思うほど、村の中でも違った雰囲気を持った集落です。上谷からも柏木〜大峰山への修験の道につながります。

柏木

川上村の南東部では最も大きな大字でした。修験道信仰で大峰山へ上る行者の団体「講」の人たちで「朝日館」と「川上ホテル」はとても賑わっていました。

裏行場として不動窟鍾乳洞があり、柏木地域だけで「柏木観光協会」を作り、今も運営しています。魚屋が2軒、米屋、百貨店があり、芝居小屋の阪市場もありました。当時の賑わいを感じられます。今では「朝日館」だけが営業を続けており、新しいお客様がレトロな雰囲気を好まれて訪れています。(ひとめぐりかわかみ夏18号で女将さんを紹介)

弘法大師ゆかりの「楠里水」が汲める「喫茶 秀」とその横に「Open cafe 秀」、ゆったりとした「くらや食堂」が国道沿いに並び、不動窟の入り口に「喫茶ホラ!あな」があって、さまざまに食事を楽しむことができます。



大迫

昭和49年に大迫ダムが完成。和歌山県や大和、平野の農業用水を確保するために、作られたダムです。大迫と入之波で153戸が水没。そのほとんどが村外へ移住されました。

現在は2世帯4人が住んでいるだけになっています。「一成工房」があります。土井一成さんは、書道家でかわかみ源流ツーリズムのガイドをしていて、林業家でもあることから杉板に書いた文字を彫るという作品の評価が高く数々のところに飾られています。

近くには柏木から大峰山を繋ぐ道が通っており、かつてはその道で柏木や伯母谷と行き来していたものと思われます。



伯母谷

川上村と上北山村を繋ぐトンネルとループ橋が出来て通行がスムーズになり、景観的にも非常にきれいな道となっています。

旧国道沿いに吉野杉と桧でオブジェ・雑貨小物などを作っている「白い犬〜Anjing Putih〜」の工房があります。

さらに進むと大台ヶ原ドライブウェイの入り口があります。

伯母峰峠には「一本だたら」の伝承が川上村、上北山村の双方に残っています。



道の駅横の観光案内所である「かわかみ源流ツーリズム」に立寄って詳しくお尋ねください。

上多古

- 1 心月院
- 2 大年神社

上谷

- 3 大泉寺
- 4 久久能智神社

柏木

- 5 松雲寺
- 6 八王子神社
- 7 朝日館
- 8 不動窟鍾乳洞
- 9 喫茶ホラ!あな
- 10 喫茶 秀
- 11 Open cafe 秀
- 12 くらや食堂

大迫

- 13 梅香寺跡
- 14 十二社神社
- 15 大迫ダム
- 16 一成工房

伯母谷

- 17 法昌寺
- 18 十二社神社
- 19 橋将監の墓
- 20 伯母峰峠
- 21 大台ヶ原ドライブウェイ
- 22 白い犬〜Anjing Putih〜

入之波

- 23 永通寺
- 24 十二社神社
- 25 三之公神社
- 26 山鳩湯
- 27 ダム釣り公園

三之公 他

- 28 吉野川源流一水源地の森
- 29 トガサワラ原始林
- 30 和歌山市民の森
- 31 明神の滝
- 32 カクシ平

入之波

国道169号から大迫ダム堰堤を対岸に渡り、県道を4km進むと入之波に至ります。ここは、大迫ダムで水没、再建された集落です。入之波温泉は古くから有名で、川原に風呂場があり、湯に浸かっている映像を見たことがあります。

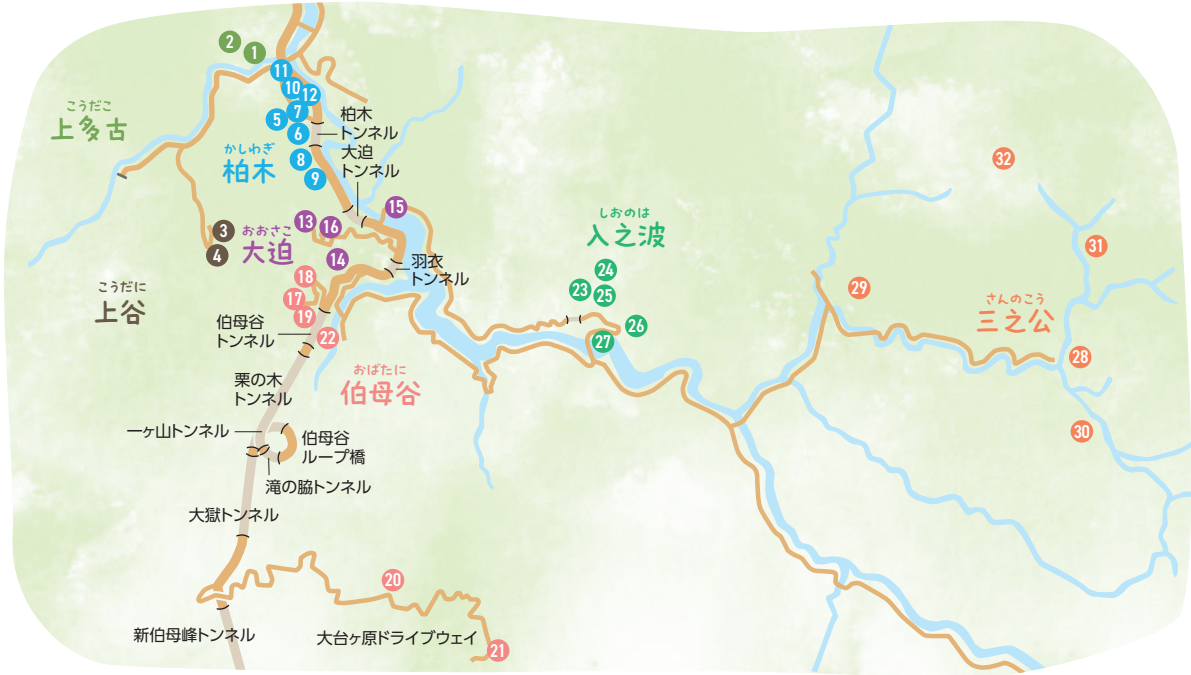
再建後に新たに温泉を掘った「山鳩湯」は、源泉かけ流しのお湯で、多くのお客さんを迎えています。キャニオニング事業者「青空ファン」の拠点があり奥の河川などでのキャニオニングで村の大自然を紹介しています。

入之波から吉野川沿いに遡っていくと二股(ニノマタ)で2つに分かれます。右の本沢川沿いに行くと筏場から大台ヶ原へ登る登山道がありますが、現在は通行止めとなっています。

三之公 他

二股を左の北股川沿いに行くと大字が神之谷になります。秋号で紹介したところですが、入之波の奥と言うことで、ここでの紹介としました。やがて三之公川が合流してきます。三之公川に沿って行くとトガサワラ原始林が対岸に見え、林道終点まで行くと「吉野川源流一水源地の森」に至ります。普段は立入禁止の森になっています。入山には、この森の管理をしている「森と水の源流館」や「かわかみ源流ツーリズム」が主催するツアーなどに参加していただくことになります。

北股川を上流に向かうとやがて林道が途切れますが、吉野川(紀の川)の最初の一滴が流れ出しています。



村の歳時記 12～2月

行事

花・鳥・虫カレンダー

12月

- 2日 **森** 吉野林業と山に生きる暮らしの作法シンポジウム
(森と水の源流館) 主催:総合地球環境学研究所 への協力
- 5日
 - クリスマスキャンドルアレンジ(体験プログラム)
 - 第24回お話カーニバル人形劇団 ポポロ公演
- 森** 琵琶湖・淀川流域対策シンポジウム(グランキューブ大阪)
主催:関西広域連合 への協力
- 6日
 - こだわりのおいしいこんにゃくづくり(体験プログラム)
- 12日
 - 杉と桧の干支“未”づくり(体験プログラム)
- 13日
 - しめ縄づくり(体験プログラム)
- 19日
 - 日本最古の人工林「歴史の証人」探訪
(体験プログラム)
- 31日
 - 大祓神事(丹生川上神社上社)



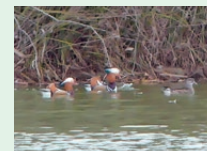
フユイチゴ



ヒイラギ



サザンカ



オシドリ



クジャクゴケ

1月

- 1日
 - 元旦 歳旦祭(丹生川上神社上社)
- 9日
 - 村消防出初式
- 10日
 - はたちを祝う会
- 11日
 - 弓祝式(東川)
- 14日
 - しめ縄とんど
- 16日
 - 自然の石からつくるオリジナル
絵の具で描こう(体験プログラム)



- 23～24日 **森** 柿の葉寿司フェア2027
(平城旧跡歴史公園天平みつき館)
主催:柿の葉寿司フェア実行委員会 への協力



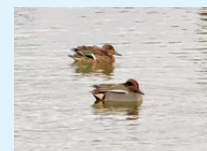
ナンテン



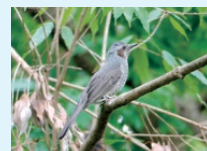
ヤブコウジ



アオキ



コガモ



ヒヨドリ

下旬～
2月中旬

2月

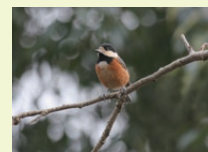
- 3日
 - 節分祭(丹生川上神社上社)
- 4日
 - 立春
- 5日
 - 第570回御朝拜式
(神之谷)
- 11日
 - 建国記念の日
- 23日
 - 天皇誕生日



ロウバイ



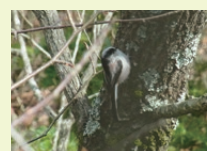
クマノザクラ



ヤマガラ



ヤブツバキ



エナガ

森 森と水の源流館 **匠** 匠の聚 **杉** ホテル杉の湯

村の歳時記について、まだまだ情報を集められていませんが、みなさんの協力で徐々に増やしていきたいと思います。

歳時記の深堀り 川上村の冬の楽しみ方



しめ縄とんど(丹生川上神社上社)



大晦日の大きな焚火(丹生川上神社上社)

何度も書いていますが、「川上村の冬は雪に閉ざされ、国道は凍ったまま」ではありません。

ひと冬にチェーンを巻かないと走れないという日は、2、3回です。国道から支線に入ると大字での違いはありますが…。

そんな川上村ですが、丹生川上神社上社では、12月31日(大晦日)に大きな焚火をして、元旦の参拝者をお迎えしています。その火にあたると風邪をひかないとか。

「川上村昔ばなし」から「正月迎えの行事」という大字西河のななし

「12月31日の晩は、西河から山越えて吉野山の蔵王堂まで正月の火(ご神火)をたばりにいっとったそうや。そいで火もろて火縄でぐるぐる回しもって山道を越えて、黒岩まで帰ってそこで松明につけ替えて西河の宮さんまでくだったそうや。その火がおとげへ一番火が見えたらお寺のおっさんは必ず鐘を撞いて氏子にすらせたんやと。蔵王堂へは他の村からも大勢の若い衆が火をたばりにいっとたんや。火の取り合いでけんかが絶えんだということや。それから大滝、西河交代で迫の官幣大社(丹生川上神社上社)へ行くことになって、一番火だけ神殿に投げ込むんや。それから神主さんがお灯明に移して祝詞をあげるんや。それが済んだら氏子たちの手持ちの松明に火をつけて家々に持って帰るんや。その火でお雑煮を炊いて新年のお祝いをす

るわけや。朝の3時か4時ごろやったな。

それからは若い衆も少なくなって火とりにもいけんようになって、火打石で火をおこすことになってな…。」

今ではこの話を知っている人も少なくなりました。

この話の後、今では氏神さんで火をおこすことも無くなりました。



正月迎えの行事(挿し絵)川上村昔ばなしより引用

村では、1月14日に「しめ縄とんど」が行われます。神棚などのしめ飾りや門松などの飾りなどを氏神さんで焚き上げるのですが、今もやっている大字でも、最近は日曜日に合わせたり、山の神の日に合わせたりと違う場合があります。出来なくなった大字もあると思います。大字上多古では、1月14日に行われます。前日から木の切り株や丸太を集めて広場に積み上げ、その周りを、竹を切って立てかけて縄などで縛ります。14日の午後11時頃から、火を着け、区民がたくさん集まってお餅を焼いたり、お酒を飲んだり火にあたりながら楽しむそうです。(「川上村民俗調査」から抜粋)

湯盛温泉 ホテル杉の湯 冬季限定 選べる鍋プラン

あなたは牡丹鍋派?それとも寄せ鍋派?今年も冬のごちそうがやってきます!

毎年大好評の冬季限定鍋プランが、11月1日(日)からいよいよ解禁!旬の猪肉を特製出汁で味わう旨みたっぷりの「牡丹鍋」と海の幸・山の幸の旨みを詰め込んだ具だくさんで贅沢な「寄せ鍋」、あなたはどちらを選びますか? 日帰りのお食事はもちろん、ゆったり楽しむ1泊2食付プランもご用意しております。本格的な冬の訪れを前に、ぜひお早めにご予約ください。

〈問い合わせ〉湯盛温泉ホテル杉の湯 TEL:0746-52-0006



牡丹鍋 (写真はイメージ4人盛)
(1泊2食付) 20,900円(税込)～
(日帰り) 9,900円(税込)



寄せ鍋 (写真はイメージ4人盛)
(1泊2食付) 17,600円(税込)～
(日帰り) 6,600円(税込)

秘湯の温もりと教えを守り、次代へ繋ぐ山鳩湯の新しい風

入之波温泉 山鳩湯

三代目 中村直貴さん



賑やかだった故郷の記憶と、自然と歩み始めた道

川上村で生まれ、中学までをこの村で過ごした中村直貴さん。高校は大阪へ進学しましたが、幼い頃から常に身近にあったのは山鳩湯の姿でした。「小学生の頃から祖父や父の手伝いをしていたので、将来は自分もここで働くのだろうと自然と思っていた」昔は地区にも人が多く活気があったと振り返る中村さん。三代目として店を継ぐ決意をし、「かつての賑やかさを少しでも取り戻せるよう補っていきたい」と語ります。

受け継ぐ教え、「ちよつと不便」な心地よさ。湯守りが紡ぐ時間

山鳩湯には、代々大切に引き継がれている教えがあります。創業者の祖父から教わった「屏風と商売は広げすぎると倒れる」という言葉です。手を広げすぎず身の丈に合った商売を守る一方で、中村さん自身もひとつのこだわりを持っています。「施設も便利になりすぎるとよくないと思っています。ちよつと不便くらいがちょうどいいんです」効率ばかりを追わず、秘湯ならではの素朴さと情緒を大切にしています。



源泉かけ流しの露天風呂

自慢の温泉は、加水を一切しない源泉100%掛け流しの濃厚なナトリウム炭酸水素塩泉。男女あわせて4つの浴槽(内湯・露天)は、溢れ出た成分や湯の華に美しく包まれ、重厚な趣を醸し出しており、自然の恵みを全身で味わえます。



八咫鳥とコラボ

自家製出汁のジビエ料理や、地酒「八咫鳥」とのコラボシール

作りなど、おもてなしの工夫も欠かしません。

3代目としての挑戦と未来への想い
「美味しかった」「良い湯だった」とお客さんが笑顔で帰っていく瞬間が、何よりのやりがいです。

現在は人材不足という課題にも直面していますが、伝統を守る一方で他施設から学び、新しい料理メニューのお届けなど挑戦を続けています。温泉ファンや地元の人々が心から安らげる場所であり続けるために、中村さんは山鳩湯に新しい風を吹き込んでいます。



温かい鍋料理



渓谷を眺めるお食事処

技と器に心を込めて。名工が贈る非日常の一皿

ホテル杉の湯

料理長 柿原聖吾さん

15から積み重ねた匠の技と川上村との出逢い

和歌山県本宮町で生まれ育った柿原料理長が料理の世界へ踏み出したのは、中学校を卒業してすぐ、15歳の時でした。和歌山にある「魚又楼」で修業をスタートし、その後は東京、三重、兵庫など各地で研鑽を重ねていきました。

平成23年に「ホテル杉の湯」の料理長に就任。「奈良の名工(奈良県卓越技能者)」に認定されたほか、全国日本調理技能士連合会の師範や奈良県調理技能士会の副会長を務めるなど、まさに和食の真髄を知り尽くした匠です。



卓越技能章

良い器と自慢の料理で演出する「非日常」

料理長として一番大切にしているのは「お客様に喜んでいただくこと」。「美味しかった」という言葉や笑顔に出会える瞬間が、日々の何よりのやりがいです。

特に情熱を注いでいるのが「器」へのこだわりです。対価を払って食事を楽しみに来



こだわりの器に盛ったお料理

てくださるお客様のために、料理を引き立てる選りすぐりの器を使い、視覚からも非日常の特別な時間を演出しています。近年は食材や資材の高騰が続いていますが、「提供価格を変えずに美味しく満足して帰ってもらおう」という努力を惜しみません。また、県の依頼で中学校へ赴き、巻き寿司づくりや野菜果物の飾り切りなどの調理指導を行うなど、次世代へ食の楽しさを伝える活動にも取り組んできました。

食を通して心満たされる旅の思い出

長年培った確かな技術と、細やかなおもてなしの心で仕立てられる杉の湯の料理。日常を忘れさせる至福の味わいは、訪れる人の旅の記憶に優しく刻まれています。

柿原料理長が創り出す極上の食体験と温かなおもてなし、川上村の魅力をかわみ源流ツーリズムも届けてまいります。



ホテル杉の湯



技能士会からの感謝状

吉野川(紀の川)源流を護る水と雨を掌る天空の社



丹生川上神社上社

宮司 松田雅之さん

歴史と自然への感謝を未来に伝える心

丹生川上神社上社の宮司を務める松田雅之さん。東吉野村出身で愛知県の尾張大國霊神社を経て上社の宮司に着任されました。「境内に一歩足を踏み入れた際、いつでも気持ちよくお参りいただけるよう境内を清らかに保つこと」という神職の基本を大切に、神社の護持に力を注いでいます。

高竈神と川上村のつながり



狛犬ならぬ狛馬を擁する本殿



神社に掲げられた絵馬

吉野川(紀の川)の源流を抱く川上村について、松田宮司は「この辺りの山々は標高が高く、より深厳な気を感じます」と語ります。水を司る高竈神を祀る上社の歴史は古く、飛鳥時代に天武天皇の神宣により創建されました。時の天皇自らが馬を奉納した風習から「絵馬発祥の神社」とも伝わり、南北朝時代には後醍醐天皇が「この里は丹生の川上ほど近し折らば晴れよ五月雨の

空」と詠まれるなど、篤く崇敬されてきました。「平成10年に大滝ダム建設に伴い現在地へ遷座され、令和10年には遷座30年を迎えます」と歩みを振り返ります。

神事・奉納行事に込められた想い

「10年程前から始めた『丹生川上三社巡り』のように、神社も時代や環境とともに少しずつ変わってきます」と松田宮司は語ります。



豊かな水が育まれる山々

また、そうした時代の変化を取り入れつつも、大切なのは「氏子や全国から訪れる崇敬者の皆さんが、互いに声を掛け合える関係構築きつつ、神社を守り続けていくこと」だと強調します。

源流を未来へ守りつなぐために

遷座30周年を迎える春の例祭に向けては、お金をかけるのではなく、皆が気持ちよくお参りできる工夫を重ね、水と自然への感謝を未来へ伝える営みを、地域とともに紡いでいきたいと話してくれました。松田宮司の思いと共に、かわかみ源流ツーリズムも取り組んで参ります。

獲って、味わう。自然体験

井水鹿の里は標高が高く、夏でも涼しい風が吹き抜ける自然豊かなスポットです。「夏場に涼しい木陰で愛犬とゆったり過ごすのがおすすすめ」と田野さんは微笑みます。

一番の魅力は、清流で育ったあまごの釣りとかみ取り体験です。捕まえた魚は、その場で炭火焼きにして味わうことができます。



あまごの塩焼



あまご釣り教室



愛犬とまったり

協力隊から始まったあまご養殖の道

福岡県出身の田野雄大さんが川上村にやってきたのは約10年前のこと。地域おこし協力隊として着任し、地元の塩谷章次さんからあまご養殖の技術を学びました。師匠の想いと技を受け継ぎ、現在は「井水鹿の里」の事業を継承して運営と養殖を担っています。



井水鹿の里

「川上村は林業も素晴らしいですが、やっぱり一番の誇りはきれいな水です。この環境で育つあまごの美しさと品質には自信を持っています」

魚を通じて、人と地域を未来へ

田野さんがやりがいを感じるのは、子どもたちとの交流です。毎年行う奈良市の小学生との放流イベントでは、「児童たちが魚についてたくさん質問してくれるのが本当にうれしい」と語ります。「これからは村の産業として養殖の生産力をさらに高め、もっと注目してもらいたいです。そして子どもたちをはじめ、訪れる多くの方々との縁を大切に育んでいきたいと思っています」

豊かな自然を守りながら感動を届ける田野さんの挑戦を、かわかみ源流ツーリズムも応援していきます。

冬の宿泊・日帰りツアー募集予告

第2回 絵巻巡礼

川上三十三霊場めぐりツアー

1泊2日

約200年前の絵巻を手に川上三十三霊場を巡る、歴史と祈りを体感するプレミアム巡礼ツアー。大工大横山先生による解説など、川上村の豊かな歴史と物語を体感してみませんか？



実施日：2027年1月中旬

御船の滝 氷瀑ツアー

1泊2日

日帰り

冬の川上村を代表する絶景「御船の滝」の氷瀑を目指す人気ツアー！静寂に包まれた冬の森を抜け、自然が生み出す神秘的な氷のアートを体感！専門ガイドも同行します！



実施日：2027年1月下旬～
2月上旬の(土)(日)

東川地区 弓祝式ツアー

日帰り

東川地区に伝わる伝統行事「弓祝式」を見学する特別ツアーを開催します！地域の祈りと歴史が息づく静かな集落で、代々受け継がれてきた伝統文化に触れてみませんか？



実施日：2027年1月11日(月・祝)

金剛寺 御朝拝式ツアー

1泊2日

日帰り

後南朝の歴史を今に伝える「御朝拝式」を体感する限定ツアー！特別観覧席や御朝拝式で出されるお雑煮がついた特別な昼食もご準備！前日にはツアー参加者だけの特別講義も予定しています！



実施日：2027年2月4日(木)～5日(金)

※上記ツアーは、都合により延期・中止の可能性もございますので、ご了承ください。

募集(詳細)開始はツアー造成後順次、チラシ・ホームページ・SNSでの告知を予定しております。

武道ツーリズム

◆問い合わせ かわかみ源流ツーリズム TEL 0746-52-0333

武道ツーリズムとは日本発祥の「武道」と観光を融合した新たな旅のスタイルです。

日本でしか体験できない武道と文化が融合した希少性の高いツーリズムとして、海外からも高い関心が寄せられています。

川上村では、剣道範士八段 上垣功氏が指導する剣

道稽古会の見学、体験ができます。

最近では、武道の動きを活用したリハビリが高齢者の健康維持に効果があると言われています。

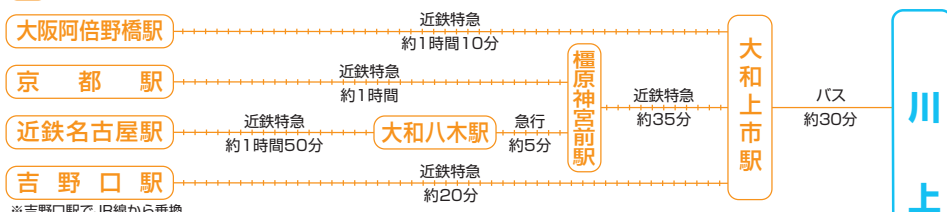
武道(剣道)の体験をしてみませんか。初心者の方も歓迎です。ぜひご相談ください。



アクセス



近鉄電車でお越しの方



お車でお越しの方



問い合わせ先



かわかみ
源流ツーリズム
KAWAKAMI GENRYU TOURISM

一般財団法人 かわかみ源流ツーリズム

〒639-3553

奈良県吉野郡川上村大字迫1335番地の3(川上村商工会館1階)

TEL.0746-52-0333 <https://g-tourism.jp/>

